

長岡紫

冬の線香花火

新春の南天を眺めていると花火を想う
凜々しい一粒が 火の粉のように迫りきて
弾けんばかりに語り始める
その血の色に恋をした浄夜
ポトリと火の玉が落ちるのを待つ